

## 温水点滴処理による白紋羽病対策の実施！（Vol.11 令和6年10月）

南信農業試験場では「なし」の収穫が終盤を迎え、来年以降の試験に向けて新たな苗木の定植が始まっています。今回は、改植時に問題となる白紋羽病に対する防除手段の一つとして、南信農業試験場で開発した「温水点滴処理」を紹介します。

白紋羽病は、土中で病原菌が根に感染し、樹を弱らせる果樹類の病気です。現在は農薬による防除が普及していますが、薬液を土中に灌注するため環境への負荷が懸念されます。そこで、農薬のみに依存しない防除技術として「50℃の温水の点滴処理による白紋羽病の防除技術」を開発しました。これは、写真左のボイラー（銀色の箱）で50℃に加熱した水を、ブルーシートの下に拵げたチューブを介して地面に滴下して地温を上げ、病原菌を熱で殺菌する技術です。

初期投資がかさむことや電源の確保が課題ではありますが、防除効果が高く、温水を点滴処理した「なし」では細根の発生が旺盛となり、樹勢の回復にも期待できる技術です。なお、技術の特徴や処理時期、対象樹の選定、高温障害の回避、効果の持続性などは、右記QRコード又は[こちら](#)によりご確認頂けますので、ぜひ防除にお役立てください。



温水点滴処理の様子



処理後の苗木定植